

荻田記

享保六

拾九

菊
180
18

本
ノ
5

富山大学
荻田文書

580

享保六年辛丑年

享保六年辛丑年

一 留山御領山に洩米中徳方之儀に身而博達と云

一 用水方の賣之物兼人足賃小水極之儀と云

一 四町に七作返

一 御領方の出入帳名目より代詰多分在りて下りて連と云

一 大牧之湯山運上派之儀より連と云

一 成出村持山より高之くらに寄り難丹新井と云成代徳山に

一 諸郡接地利引免村之之是

一 東中村之接伐中身過急免臺步其山并山場又

一 三宅田家派通用之之幸物之身即計

一 洲原之山并新又口所賣不情之身即計

一 戶吉村又召海之身介後陸也之

一 内橋組蒸籠也之孫子後也之

一 洲原村之派之身也之

一 洲原村身通之何也

一 中田組口橋組村通之何也

一 戸吉村又召海之家の人言也之

一 芥谷村用水大彼當り兼而外之船並諸也其後乾天

一 接成村之戸出并又召海之洲原村身通之何也

一 洲原村之身也之何也之

一 金平村也其海之洲原市通之何也

一用水以務止能平之威ハ市守布物

一水矢能所流是物助其起尾交白甲村法田地割并其地

余步未多之身ノ子ノ上ノ言何也

一五之他答来即流細也之

一市上使即通身御来平人馬結袋淺文并也

一而流川村水官伐場ノ法取長止ニ是程也之身ノ也

一有本呂山道止流又水ノ後程有身中場ノ入

一新川取之流ハ高野馬未之身ノ之也昔人ノ以建去水之道

一法毛兼淺也場高止身中場ノ其也

一一定式属物代終ノ刻并去之

一洩流改重尾尾尾村水匠場身水者若水其ノ也

折之河也也

一理尾尾尾尾尾尾又ノ井水業又身法書其也

一而能亦ノ於ノ後始身水匠後始身水

一 生駒 三ノ宮 浦上 村 此 村 乃 武 家 之 所 在 也

一 浦 上 村 乃 武 家 之 所 在 也

一 江 戶 武 家 之 所 在 也

一 浦 上 村 乃 武 家 之 所 在 也

一 武 家 之 所 在 也

一 後 谷 村 乃 武 家 之 所 在 也

一 武 家 之 所 在 也

一 浦 上 村 乃 武 家 之 所 在 也

一 武 家 之 所 在 也

一 武 家 之 所 在 也

一 武 家 之 所 在 也

一 武 家 之 所 在 也

一 武 家 之 所 在 也

一 武 家 之 所 在 也

一 兼修村馬場村之入師評定与古史之判書
此之入師也而兼修人亦好修派

一 公義公以爲身人好也之可之好道

一 位業修修身之可之好道

一 古人教書上才身師兼修人之道之可之好道

一 若谷此用水善法身之可之好道之可之好道

一 以網子身人可之好道

一 一見之免新矣而猶猶自之可之好道之可之好道

一 一見之之師收納之可之好道

一 一切支丹金平村身人亦也之可之好道

一 一之利村之宛宛中及修修之可之好道之可之好道

一 一修身之可之好道

一 一向修身之可之好道

一 一之利村中及修修之可之好道之可之好道

一 横方改

一 我亦曾结为同八劫之外不亦何苦之与尔弱

一 亦贷承是之身之若松村八印局亦道也

一 法亦出屋之多少身性生道又

一 百源川本邑亦逢上派五之之身苗傍地也

一 高辻村乃室之麻傍是傍村也入身以是仍余向惠高利

一 得子心身退捕物之我白高道

一 百源川亦品逢上片年亦亦山坂

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

Faint handwritten text on the left side of the page.

Faint handwritten text at the bottom of the page, possibly a list or index.

馬山平願書漢系平編之文深由新仕百發台修之也係係
 致于馬山進付初去天瑞、右法編没、月勿編古培湖村
 所兼記在改在古也者至平海漢系平新在古仕古の上

享保六年十一月廿一日

田中村 岩倉島
 垣生村 古島
 前崎村 古島
 重原中村 長島
 中田村 源六
 大崎村 古島

山善田場

夢

一 口 口 五 屋 根 草 山 善 田 場 至 山 代

一 山 代 山 善 田 場 至 山 代

下 利 吉 村 皇 古 岳

祖 山 村 皇 古 岳

大 西 村 加 古 岳

三 清 村 皇 古 岳

千 石 村 又 古 岳

一 三 分 口 屋 目 指 山 善 田 場 代

一 三 分 口 屋 皇 古 岳 至 山 代

右 勝 波 取 用 水 方 賣 上 物 并 皇 古 岳 別 指 山 善 田 場 代

新 波 取 用 水 方 賣 上 物 并 皇 古 岳 別 指 山 善 田 場 代

享 保 六 年 二 月 吉

田 中 村 皇 古 岳

千 石 村 皇 古 岳

祖 山 村 皇 古 岳

大 西 村 皇 古 岳

山 善 田 場

市見 縣之通中身者也

重首言 改代身中

右中身或可分三有

田中村 岩倉島也

大西村 加三村組

前所村 岩倉組

元知村 岩倉島也

中田村 原古組

内所村 原古組

地生村 岩倉島也

重原中身村 岩倉島也

大瀧村 岩倉島也

前所村 岩倉島也

三浦村 岩倉島也

地生村 岩倉島也

右廻古種中身古五子山五廻之身 田中村 岩倉島也 元知村

又古島古廻廻古廻下古上

重

二月言 重原中身村

改代身中

一 縣中身出入地所中身重原中身古五子山五廻下古上出古島也

一 重原中身古島古廻下古上

一法書系代漢之師也了也

右之通之能自以月善能言古賦中後為古也

皇保二年二月

仲百

師代

大牧湯之南身湯之仲之少智村社為智村社之湯對

大牧之書身由下之身為湯之若為山中之書

所由山河也水也中而書上之

一六牧湯運上之身也牧之六牧村以命八若社市為之能

江東之於湯之入之也之身也此身實永年而運上之身也

河中之身湯之入之同九年五山中而湯市為之也

運之身也此身也湯之身也山中而湯市也

此身之內也此身也山中而湯市也

市也此身也此身也湯市也

少江之身也山中而湯市也

社在也此身也此身也湯市也

湯市也此身也又此身也此身也湯市也

為身也

一、寛永九年湯河邊上座子神將之内西向山頂を道徳侯
 として正山惣平とあり年々大牧村に奉納せし物あり
 左様十年湯河山と古伝にあり在東山頂と云ふ山は
 正山頂と云ふ別名あり右山頂西折之内三折に在東山
 少座と云ふ山と古伝にあり山頂之内第一左様十年以
 後湯河能く大牧村に奉納す山頂之内西折と云ふ山は
 賢出に傳りやふと古傳にあり右山頂西折地と云
 ふは、大牧村と湯河村との境界なり此山頂西折地と云

向湯河村の懸に古伝に下段に在りて山頂の西折
 といふと云ふ湯河村の山

右湯河村に在りて山頂の西折と云ふ山は、大牧村
 及び湯河村の境界なり

享保六年二月日言

- 田中村 三上島
- 千代村 又上島
- 垣生村 伊上島
- 前野村 伊上島
- 大西村 伊上島
- 中田村 伊上島
- 伊上島 六

河原川

大膳村 三石馬
三信村 分石馬
堂里中津村 堂里馬
中津村 堂里馬
但山村 新川節

一六牧村湯名湯控當年五山上五湯山所分小原系原御吉湯
五山五山五山所控之江後台湯中村(但山村舊所中津村
庄馬 弟五山中書身出中五右湯場馬弟山五原山
但山村所之庄馬名但山村馬書身出中五大牧村七通若

為後和湯中是之江控之江湯之五村 而中六
牧村湯運上之庄馬均之大牧村願之五極之然之地五極
多之安大牧村之五下後之江庄馬七湯書之五

一五湯控當年湯五山上五湯山所分小原三新有之五原
九年之五山中五運上全抄之五右五乾年之五山所
為五山所控之五右三新之山所五山中五湯下五之五
五山所控之五右五山所之五山所控之五山所
控當年五山中五湯入之湯侯山所侯大牧村之五山所
五山所控之五山所 湯五山所控之五山所 創控之五山所大牧村

小畑谷山奥より北に流るる所有小畑と称する山は古傳より
 聖ありとの説ありて御座るを得共意す

一右小畑場南より山廻り村の端より東へ新吉谷端の方
 渡橋ありと御座る事あり

右寺の舊志に傳ふ事あり

享保五年二月

廻山村
 古傳

中畑村
 聖吉

田中村
 聖吉

戸田村
 聖吉

恒吉村
 聖吉

前所
 聖吉

中畑
 聖吉

公認書
 聖吉

一私考在り持山と稱する事あり、右之を持山の内島と云
 雜志に記す所あり、新吉と云へば是れ其のり、聖吉殿と稱
 物波のり、古傳中、國書には、白、耕作と稱、成り、時、右
 教寺と云ふ、其の由、往、但、目、也、寺、只、天、也、之、新、聖、江
 立、毛、を、た、り、り、之、以、為、也、且、又、新、聖、之、本、也、之、山、也、
 の、江、川、端、河、南、也、之、村、也、聖、吉、殿、也、是、果、神、殿、也、

市分於

形之通中分以東隈之在分中分也
清書分下由者也

草子
百廿

改代分

喜保五年十月市以五樓地并年市門之村之邊

一市樓地

天田分

西ノ邊村

新地分

上原地村

一市樓地

大宮分

東邊村

一市樓地
天
吉木村

一市樓地

湖上分

邊島村

一市樓地

上野分

牛坂村

一市樓地

武戸分

三橋村

一市樓地

五井分

子保村

一市樓地

鴨川分

宇加橋村

一市樓地

水野分

蓮座分

物部分

中込村

一市樓地

五井分

柳田村

河少缺
一 河塘北

藕干与

钓虾村

一 年庄白兔

北岸

袁庄白兔村

一 河塘北

中田与

上初田新村

大田与

小山村

一 年庄白兔

中田与

村白兔村

苗塘与

布线村

草保二年全庄中田与东中村之者招伐中田
一 作为了三志在步先出各立与成身活年
为心河成发附姓之向写金

与苦七招石庄左

上免在步

一 招石中第庄左

足洞只岸

东中村

月 招石在布庄左

在舟招石庄左

招石庄招石庄庄左

一 招石庄招石庄庄左

在林木庄

右市法为之地很招伐中田与三志苗庄上免中田庄
为中庄步招石庄庄左通都是地

一 草保二年全庄

苗塘与

布线村

嘉保二年九月十日 木曾藩 田邊 貞綱 謹啓

江戶御使 中津藩 中津藩 向後 中津藩 御使 御使

書上 中津藩 御使 御使 御使 御使

中津藩 御使

新領 中津藩 御使 御使

一 嘉保二年 御使 御使

中津藩

一 嘉保二年 御使 御使

大津藩

二 嘉保二年 御使 御使 御使 御使

御使 御使 御使 御使 御使 御使

御使 御使 御使 御使 御使 御使

御使 御使 御使 御使 御使 御使

嘉保二年 御使

御使 御使

永保二年 御使

加藤 御使

嘉保二年 御使

一 嘉保二年 御使 御使 御使 御使

御使 御使 御使 御使 御使 御使

御使 御使 御使 御使 御使 御使

嘉保二年九月十日 木下高島國遠南極 寺傳海台 只存也

江崎傳中書の 書有也 古網の 向後 内政傳中書の

書上より 可成 諸部 上下 諸部 寺傳海台 寺傳海台

戸田村 寺傳海

新渡戸 寺傳海 寺傳海

一 寺傳海 寺傳海 寺傳海

中田組

一 寺傳海 寺傳海 寺傳海

大滝組

二 寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海

寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海

寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海

寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海

嘉保二年二月

持名人 連判

書所 寺傳海

寺傳海

寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海

寺傳海

寺傳海 寺傳海

一 寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海

寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海

寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海 寺傳海

此後... 江野寺...

一 勢各用水并所養若所寺村...

一 所勢各用水... 江野寺...

一 江野寺...

右... 江野寺...

一 江野寺...

享保五年二月

田中村

千石村

徳生村

前所村

江野寺

中田村

三所村

江野寺

紙向... 江野寺...

享保五年二月

改代...

外用水...

一 文... 江野寺...

若... 江野寺...

嘉保三年正月十日

田中村 岩倉屋

大和村 五十島

一 沙黄

一 沙黄

一 沙黄

一 沙黄

一 沙黄

定例の月給を所存の沙黄より引去る

嘉保三年正月十日

嘉保三年正月十日

嘉保三年正月十日

去年未出の沙黄より引去る

一 沙黄

嘉保三年正月十日

一 沙黄

一 沙黄

一 沙黄

嘉保三年正月十日

嘉保三年正月十日

一 沙黄

一 沙黄

右所請款係係古年所請所請之項其數已詳列於前
至於古年之款亦係所請之項其數亦詳列於前
古年九月十五日所請之項其數亦詳列於前

古年九月十五日

古年九月十五日

田中村
古年九月十五日
古年九月十五日
古年九月十五日

古年九月十五日所請之項其數亦詳列於前
至於古年之款亦係所請之項其數亦詳列於前
古年九月十五日所請之項其數亦詳列於前

古年九月十五日所請之項其數亦詳列於前
至於古年之款亦係所請之項其數亦詳列於前
古年九月十五日所請之項其數亦詳列於前
至於古年之款亦係所請之項其數亦詳列於前
古年九月十五日所請之項其數亦詳列於前
至於古年之款亦係所請之項其數亦詳列於前
古年九月十五日所請之項其數亦詳列於前
至於古年之款亦係所請之項其數亦詳列於前
古年九月十五日所請之項其數亦詳列於前
至於古年之款亦係所請之項其數亦詳列於前

古年九月十五日

田中村

古年九月十五日

古年九月十五日

恒生村 恒生
 前野村 前野
 伊賀村 伊賀
 大向村 大向
 西ノ里村 西ノ里
 丁ノ里村 丁ノ里
 吉ノ里村 吉ノ里

一 中田村源云 与下谷村廻江田方是之江高由年巨野
 随分情を由し高修程も入結成三高
 右為所経進丁上の上

享保五年六月

中田村 源云
 下野村 又吉

中野村
 中野村

一 内野村源云 汝但下村廻江田方是之江高由年巨野
 中野村源云 由し高修程も入結成三高
 右為所経進丁上の上

享保五年六月

中野村 源云
 下野村 又吉

中野村
 中野村

皇前書上奉^御覽
一 百餘人

男 女

但持書以上

口 奉 人

男

自分

二 拾 人

男

中 人

但持書中人
其時

三 拾 人

女

西 京 書

四 拾 人

女

中 女

但持書中人
書系娘

右 初 日 奉 持 書 上 奉 御 覽
奉 持 書 上 奉 御 覽
奉 持 書 上 奉 御 覽

享保二年閏七月

藤原朝臣持書
又右馬

永京法正殿
加差九節古印殿

書持書以上

一 當 月 十 日 社 門 大 水 出 奔 若 野 因 水 大 堰 上 下 切 流 惠 川
并 近 市 東 以 茶 水 門 前 是 也 指 以 示 也 水 流 中 以 右 引 引 過
情 持 書
右 為 奉 持 書 上 奉 御 覽

享保六年閏七月廿九

中田村 原六
戸田村 五右衛門

田邊七三傳殿
沼井知平殿

右付通三通正路既而利行而重行而先

帶

一五右衛門

松

在四右衛門三右衛門
目地之三右衛門三右衛門

日 杉五右衛門

室理岩尾村持山

五右衛門

坪中村杉山之内五右衛門村

ノ 赤木村 杉山之内

右高月寺の社河法水江岸岩壁の利行川に大堰三平
出流大堰に石成山を唯今之通潤江に因方水正
中寺と能方寺の間に在る場前善清延門江善清
用水退燒江下と寺の右に杉林杉林と作付と寺
寺の江に延善清江に寺の右に杉林と通と作付と寺

享保六年閏七月

碓氷郡中田村

田邊七三傳殿

戸田村 五右衛門

沼井知平殿

石野右衛門用事川口樞四郎廣平身左衛門中後進士
田方右之丞叶右之丞通潤信長右之丞右之丞右之丞
右之丞右之丞右之丞右之丞右之丞右之丞右之丞
右之丞右之丞右之丞右之丞右之丞右之丞右之丞
右之丞右之丞右之丞右之丞右之丞右之丞右之丞
右之丞右之丞右之丞右之丞右之丞右之丞右之丞

享保三年閏七月

中田村 廣六

中田村 廣六

中田村 廣六

号

一

新丁浪

石野保五年砥波秋和代右而横越村高子控在
七年九月廿二日申和申控在申内同申秋申出申
以後申保申申十割増申保申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申申申申申申申申申申

享保三年八月

下田村 又右馬

中田村 廣六

一 神固大至者... 身望之... 有之... 神... 上... 神... 神...

... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神...

享保三年八月晦日

千町村 又右馬

永系法王馬殿

加原九命寺殿

一 能曾欲金采村切而丹敷族帝... 月... 神... 神...

... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神...

... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神...

... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神...

... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神...

享保三年九月十日

千町村 又右馬

永系法王馬殿

加原九命寺殿

一 六分... 神...

神...

根... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神...

右 願... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神...

... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神...

の原に下りし程に、^{田中村} 田中村の邊歩きたるに、右山中に、
七左衛門守上守之、^{田中村} 田中村定乃七、^{田中村} 田中村の邊
中、^{田中村} 田中村の邊歩きたるに、^{田中村} 田中村の東、^{田中村} 右邊歩きたるに、
^{田中村} 田中村の邊歩きたるに、^{田中村} 田中村の邊歩きたるに、
右邊歩きたるに、^{田中村} 田中村の邊歩きたるに、
上りて、^{田中村} 田中村の邊歩きたるに、

享保七年八月十日
田中村
田中村
田中村
田中村
田中村
田中村
田中村

夢

一、^{田中村} 田中村の邊歩きたるに、

田中村

一、^{田中村} 田中村の邊歩きたるに、

田中村

一、^{田中村} 田中村の邊歩きたるに、

田中村

田中村

田中村

右、^{田中村} 田中村の邊歩きたるに、^{田中村} 田中村の邊歩きたるに、

右、^{田中村} 田中村の邊歩きたるに、^{田中村} 田中村の邊歩きたるに、

享保七年八月十日

田中村
田中村

下利街村
田中村
千田村
又古里

青浦十古判市仕
十古判市仕

田中街地事係古事 市官字年帳

多

一 二百五拾八日

市東中馬路是田江村分水見地道路
程由里丁估實時今在古動
三里亦市丁福里今博路述由里并路
馬山也七里由路河而道路之程由里
由路市丁之新里路去里至在古動

一 二百五拾四日

路馬三拾是道程在日所中其路
法去里至在古動

一 二百五拾四日

市東中馬路是田江村分水見地道路
程由里丁估實時今在古動
三里亦市丁福里今博路述由里并路
馬山也七里由路河而道路之程由里
由路市丁之新里路去里至在古動

一 二百五拾四日

市東中馬路是田江村分水見地道路
程由里丁估實時今在古動
三里亦市丁福里今博路述由里并路
馬山也七里由路河而道路之程由里
由路市丁之新里路去里至在古動

一 二百五拾四日

市東中馬路是田江村分水見地道路
程由里丁估實時今在古動
三里亦市丁福里今博路述由里并路
馬山也七里由路河而道路之程由里
由路市丁之新里路去里至在古動

一 二百五拾四日

市東中馬路是田江村分水見地道路
程由里丁估實時今在古動
三里亦市丁福里今博路述由里并路
馬山也七里由路河而道路之程由里
由路市丁之新里路去里至在古動

一 九折七百沙

市者之新前塔者而也 (一) 九折七百沙

一 百折五百沙

市者之新塔里物運之也 (一) 百折五百沙

一 九折七百沙

市者之新塔里物運之也 (一) 九折七百沙

一 沙折四百二分

市者之新塔里物運之也 (一) 沙折四百二分

一 百折五百沙

市者之新塔里物運之也 (一) 百折五百沙

一 九折七百沙

市者之新塔里物運之也 (一) 九折七百沙

一 只折八百五分

市者之新塔里物運之也 (一) 只折八百五分

一 九折七百沙

口里站

代 口里站九五分

新丁站但送月站折八

右京保沙年巡見

上使射の歌破波歌の通之時分法

市者之馬其外以座人其折法右之通之海里折

海去但之別身仕人其折法右之通之海里折

嘉保古年正月

中野村 湯之谷 加納村 湯之谷
 大野村 湯之谷 加納村 湯之谷
 北野村 湯之谷 湯之谷 湯之谷
 東野村 湯之谷
 田中村 湯之谷 中野村 湯之谷
 大野村 湯之谷 湯之谷 湯之谷
 大野村 湯之谷 湯之谷 湯之谷
 大野村 湯之谷 湯之谷 湯之谷
 大野村 湯之谷 湯之谷 湯之谷
 大野村 湯之谷 湯之谷 湯之谷

平野河沙道三月十日

一 石川川 石川川 湯之谷 湯之谷 湯之谷 湯之谷
 石川川 湯之谷 湯之谷 湯之谷 湯之谷 湯之谷
 湯之谷 湯之谷 湯之谷 湯之谷 湯之谷 湯之谷

一 石川川 湯之谷 湯之谷 湯之谷 湯之谷 湯之谷
 湯之谷 湯之谷 湯之谷 湯之谷 湯之谷 湯之谷
 湯之谷 湯之谷 湯之谷 湯之谷 湯之谷 湯之谷
 湯之谷 湯之谷 湯之谷 湯之谷 湯之谷 湯之谷
 湯之谷 湯之谷 湯之谷 湯之谷 湯之谷 湯之谷

石川川之湯之谷

中田村 伊豆
戸町 吉島

一 此處は... 新又... 井... 書... 道... 在...
一 此處は... 地... 若... 地... 上... 大... 平... 地... 更... 松... 浦... 地...
一 此處は... 地... 下... 台... 心... 志... 以... 地... 局... 長... 松... 山... 地... 下... 由...
一 此處は... 地... 下... 台... 心... 志... 以... 地... 局... 長... 松... 山... 地... 下... 由...
一 此處は... 地... 下... 台... 心... 志... 以... 地... 局... 長... 松... 山... 地... 下... 由...

二月十日

信五子書
信五

伊豆

一 此處は... 地... 下... 台... 心... 志... 以... 地... 局... 長... 松... 山... 地... 下... 由...
一 此處は... 地... 下... 台... 心... 志... 以... 地... 局... 長... 松... 山... 地... 下... 由...

伊豆

一 此處は... 地... 下... 台... 心... 志... 以... 地... 局... 長... 松... 山... 地... 下... 由...
一 此處は... 地... 下... 台... 心... 志... 以... 地... 局... 長... 松... 山... 地... 下... 由...
一 此處は... 地... 下... 台... 心... 志... 以... 地... 局... 長... 松... 山... 地... 下... 由...
一 此處は... 地... 下... 台... 心... 志... 以... 地... 局... 長... 松... 山... 地... 下... 由...
一 此處は... 地... 下... 台... 心... 志... 以... 地... 局... 長... 松... 山... 地... 下... 由...

一 十村古抄抄入之書之冊世之流也古先神以中并出
布之數若仕管之由至年結之類若在或等物等能
家月仕之与粗沙法有之由是又家代也迄荒穢之秋子
由是長右之由、神傳止之由而應仕取以束之者も亦
唯之申律之方指分限之由應之役等之由之由也
一 一節の方走之由多之申之由申之由申之由申之由申之由
一 一人之由之由申之由申之由申之由申之由申之由
一 申之由申之由申之由申之由申之由申之由申之由
一 申之由申之由申之由申之由申之由申之由申之由

一 一節の方走之由多之申之由申之由申之由申之由申之由
一 一人之由之由申之由申之由申之由申之由申之由
一 申之由申之由申之由申之由申之由申之由申之由
一 申之由申之由申之由申之由申之由申之由申之由
一 申之由申之由申之由申之由申之由申之由申之由
一 申之由申之由申之由申之由申之由申之由申之由
一 申之由申之由申之由申之由申之由申之由申之由
一 申之由申之由申之由申之由申之由申之由申之由

一 一節の方走之由多之申之由申之由申之由申之由申之由

号

一 毛

温紙包

一 毛

最白

一 毛

二色包

一 毛

風呂油包

右之通河方は指巻長糸を改作通つてある

何月何日

何村 誰

何方奇物改作

今月何月何日中程浦に敷火舟は跡為江草原山原
遠く忍つたは松は但平丸向より下程山又松の内裁作
へいよと能く松とを速を同波中へ昔傳速

右江戸浦中程浦に敷火舟は跡為江草原山原
拙者月何月中に下程山中へ昔は月何日何村何縁守殿
昔意向は但平丸下程山上

二月十日

加藤九郎吉郎

永原清吉郎

市橋村十村中

於心要之為 茶古市所定之為 方は右之類 又其方之類 而
寫字進了 務之以上

此處市所定之類 其方之類 其方之類 其方之類 其方之類
連日如狀 確生也 之類 之類 之類 之類 之類

流若村 川左田村 藤原村 上麻生村

ノ時之類 係二年之類 其方之類 其方之類

藤原村 谷村 中麻生村 松山村 上野村

ノ時之類 係二年之類 其方之類 其方之類

右九上村 中麻生村 川左田村 藤原村 上麻生村

其方之類 係二年之類 其方之類 其方之類 其方之類

其方之類 係二年之類 其方之類 其方之類 其方之類

其方之類 係二年之類 其方之類 其方之類 其方之類

其方之類 係二年之類 其方之類 其方之類 其方之類

其方之類 係二年之類 其方之類 其方之類 其方之類

其方之類 係二年之類 其方之類 其方之類 其方之類

其方之類 係二年之類 其方之類 其方之類 其方之類

其方之類 係二年之類 其方之類 其方之類 其方之類

其方之類 係二年之類 其方之類 其方之類 其方之類

半身若何の指紙下を... 是れ... 中百言... 直... 指紙...

正月十日

十村 伊藤 山田

伊藤 山田

菊田... 菊田... 菊田...

正月十日

伊藤 山田

十村 伊藤 山田

能別... 小森... 江... 菊田... 菊田... 菊田...

勞

一古口控月

中核村(村水飲清慎得) 宛山

一古口控月

口瑞例於(原即村) 恒方

一古口控月

十村風苦(取物) 村 古島島

一古口控月

瑞波(取) 通村(所) 萬古島

一古口控月

右能別(古) 順(是) 修(行) 之(者) 以(原) 庵(輝) 村(之) 者(也) 出(之) 矣

之(身) 山(露) 多(男) 國(通) 角(古) 邊(江) 午(江) 亦(神) 以(之) 身(通) 年

注(東) 流(注) 了(注) 以(注) 通(留) 百(分) 亦(注) 持(方) 代(之) 中(劫)

是(之) 亦(多) 亦(通) 角(口) 丁(亦) 注(亦) 出(件)

一古口控月

亦(亦) 用(場)

河(左) 亦(九) 亦(亦) 乃

根(亦) 亦(亦) 亦(乃)

右(亦) 亦(注) 亦(亦) 亦(亦) 亦(亦) 亦(亦)

山(亦) 亦(多) 亦(亦)

亦(亦) 亦(通) 亦(角)

勞

一古口控月

亦(亦) 丁(注)

右(之) 亦(亦) 亦(亦) 亦(亦) 亦(亦) 亦(亦) 亦(亦) 亦(亦) 亦(亦) 亦(亦)

予は此山を以て海嶽と名づるは身は海嶽と
し其の山は二山ありて其の峰は
其の峰は二山ありて其の峰は
其の峰は二山ありて其の峰は
其の峰は二山ありて其の峰は
其の峰は二山ありて其の峰は
其の峰は二山ありて其の峰は
其の峰は二山ありて其の峰は

其の峰は二山ありて其の峰は
其の峰は二山ありて其の峰は
其の峰は二山ありて其の峰は
其の峰は二山ありて其の峰は
其の峰は二山ありて其の峰は
其の峰は二山ありて其の峰は
其の峰は二山ありて其の峰は
其の峰は二山ありて其の峰は

予は此山を以て海嶽と名づるは身は海嶽と

石石

石石

石石

石石

石石

寺社

沙石

沙石

沙石

沙石

沙石

石平對馬守

土井伊能守

酒井伊能守

牧野因幡守

中山石守

沙石

大島伊能守

伊能是院

石石

真指摩守

沙石

大久保伊能守

沙石

駒木辰胆守

沙石

水野伊能守

人

伊能是院

伊能是院

伊能是院

此係分地中前所南中... 亦在道
... 亦在道
... 亦在道

一在... 亦在道

甲子月...

法...

甲子...

甲子...

中...

... 亦在道
... 亦在道
... 亦在道

一...

... 亦在道

... 亦在道

... 亦在道

... 亦在道

... 亦在道

... 亦在道

第一中平乃極方而理氣交行也一法其共上言一
公方極上言上其上方理氣交是之氣也作源由也
其方極上言上其上方理氣交是之氣也作源由也
下中平乃極方而理氣交行也一法其共上言一
下中平乃極方而理氣交行也一法其共上言一
下中平乃極方而理氣交行也一法其共上言一
下中平乃極方而理氣交行也一法其共上言一
下中平乃極方而理氣交行也一法其共上言一
下中平乃極方而理氣交行也一法其共上言一
下中平乃極方而理氣交行也一法其共上言一
下中平乃極方而理氣交行也一法其共上言一
下中平乃極方而理氣交行也一法其共上言一

善性利也其月中中平乃極方而理氣交行也一法其共上言一
細下上言其性理也

日月其也

行也其也

善性利也其月中中平乃極方而理氣交行也一法其共上言一
又中平乃極方而理氣交行也一法其共上言一
善性利也其月中中平乃極方而理氣交行也一法其共上言一

善性利也其月中中平乃極方而理氣交行也一法其共上言一
十九日也其性理也一法其共上言一
以極源也其性理也一法其共上言一

中領西中十村山号中

右之通正波向出...

七月

法百...

...

中...

...

一...

...

一...

白浪三牧花

...

同

...

十村

...

...

...

...

い上

...

...

惜向十月止以以前月之禮文不及其用且麻履增其
 卷之百之禮也船入津之氣之被船等事之市打沒之改
 之浦外又指由之筆之禮通之書物麻履村治而打解
 其形之船打浦仙憐子去云於麻履沖遇難風其筆之
 沙利可其之山之般是也通之海境而遠之是通之
 昔若海之山名掛之麻履之海沖之了志若麻履是也
 其海中之有北分也其土全村而海境之海向志是通
 以海境而為海境之海境之海境之海境之海境之海境之
 仍命儀之上如若之海境之海境之海境之海境之海境之

嘉慶二年辛丑六月十日

寬 播磨中
 弱 肥後中
 大 中野中
 水 伯耆中
 大 越前中
 中 出雲中
 土 伊豫中

何人

何人

何人

何人

何人

何人

何人

何人

何人

何人

醫師女

神子

此人乞食男也

口也

年所之男也

口也

為内男也

口也

釋多男也

口也

そて村へて居て通書也

そて村殺

何故何て村

於左何年何名何故何人

持て申上之異也

日

何百人

何百人

何百人

何百人

何百人

男

女

石性頭後之人男

口也

口也

何抄人

門女

何抄人

道心

何抄人

尼

何抄人

醫師

何抄人

女

何抄人

邦子

何抄人

洲人 女 長男

何抄人

女

何抄人

舞 男

何抄人

女

何抄人

為内男

何抄人

女

何抄人

禰多男

何抄人

女

右抄与下右姓既破 經既之七乃心尼醫師邦子 此人之名

舞 為内禰多男 此抄子 此心 此女 此人 此書 此中

通 此通 此書 此心 此女 此人 此書 此中 此抄 此子

方 此方 此心 此女 此人 此書 此中 此抄 此子

人 此人 此心 此女 此人 此書 此中 此抄 此子

嘉慶二十六年

何於十村何村

此れ

加藤九郎吉命殿

永永清吉命殿

今般... 上義... 守... 大... 文... 有... 用... 中... 外... 自... 持... 江... 上... 也... 上

七月

永永清吉命殿

加藤九郎吉命殿

何於十村何村

今般... 守... 大... 文... 有... 用... 中... 外... 自... 持... 江... 上... 也... 上

永京清書
加藤九郎左衛門尉
右之通河田十郎左衛門尉
之男也今有一通書
七月十日

永京清書
加藤九郎左衛門尉
河田十郎左衛門尉

永京清書
加藤九郎左衛門尉

永京清書
加藤九郎左衛門尉

永京清書
加藤九郎左衛門尉

永京清書
加藤九郎左衛門尉

永京清書
加藤九郎左衛門尉

永京清書
加藤九郎左衛門尉

永京清書
加藤九郎左衛門尉

永京清書
加藤九郎左衛門尉

永京清書
加藤九郎左衛門尉

永京清書
加藤九郎左衛門尉

永京清書
加藤九郎左衛門尉

永京清書
加藤九郎左衛門尉

永京清書
加藤九郎左衛門尉

永京清書
加藤九郎左衛門尉

永京清書
加藤九郎左衛門尉

永京清書
加藤九郎左衛門尉

出右江平進下乃江進以若偽並外。古知を中入
外乃甲其而没入下乃神倉車

一 所村寺後地に多事を考らむ時条件に或は徒若

多考に於て其長短神の考其の旨は考考と由是乃

一 此を平進下乃江進以若偽並外。古知を中入

一 所村寺後地に多事を考らむ時条件に或は徒若

一 多考に於て其長短神の考其の旨は考考と由是乃

一 此を平進下乃江進以若偽並外。古知を中入

一 所村寺後地に多事を考らむ時条件に或は徒若

一 多考に於て其長短神の考其の旨は考考と由是乃

一 此を平進下乃江進以若偽並外。古知を中入

一 所村寺後地に多事を考らむ時条件に或は徒若

一 多考に於て其長短神の考其の旨は考考と由是乃

一 此を平進下乃江進以若偽並外。古知を中入

一 所村寺後地に多事を考らむ時条件に或は徒若

一 多考に於て其長短神の考其の旨は考考と由是乃

一 此を平進下乃江進以若偽並外。古知を中入

而... 延为... 注... 进... 台... 丁... 及... 高... 内... 山... 上

辛丑年... 月... 日

永原... 庄... 氏
加... 九... 帝... 氏

射水... 庄... 氏
十... 村... 庄... 氏

...

...

...

...

...

同七月十日

板山監物

加... 九... 帝... 氏

永原... 庄... 氏

右...

...

...

同七月十日

永原... 庄... 氏

加... 九... 帝... 氏

射水... 庄... 氏

十... 村... 庄... 氏

去月十日之出入高野后野用舟行乃大破之舟身破
那舟雖以林高松木者亦中全座若惡行崎山方松松
亦中林於江古日乃口善治江後名中因村源古亦村
亦高而致姓向之市善同場中在來 物又亦池市林
亦中印高之松乃善治江之市林退轉口事之亦成
亦善身修之徑乃之及之善身高之市林善身性松山林
恒復廻乃善身亦善治江乃之林亦善之乃乃乃善治
新亦大切之乃乃乃一徑乃善身乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

其上乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
山亦池市林乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一在乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
山池乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
立乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

辛丑
八月十日

永京清古乃乃

加乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

山池

池田林乃乃乃

山田乃乃乃

百村 山地中

中田村 原六

戸田村 五七五

前田村 別五

御洞大之字控九疋者之記御洞之字控者何方成也

里人多く之を為去て下台也 御由の記前之字控

御影方にて御影の山

二月十日

唐原平兵衛

坪倉高太郎

加藤北条長命殿 永原信長殿

右之通御影の山左大之字控之者之記にて御影の山

のを二丁者等之記にて御影の山と記す

此ノ山は昔々御影の山と記す

二月十日

永原信長殿

加藤北条長命殿

新水碓保町

十村

山田村

石野山

此ノ山は昔々御影の山と記す 編修年次才為外之を續立

臨り下月並に遊百没入指是也其之上有収納也

七月月序

改作中

破作

中作

十月中

今般只前信切而丹類族市控好義者數小更

一單三移六

一中用志之其之有之有之

一而辨能向之員あつて月九ノ皇崩通リ

一巾之出席つて是しつて

一清貴古わつてひらき前級三の角

一市九つてつて

の上

切多丹類族能皇款皇平村生生非人小座之長妻

市

石之者高月吉非人小座之皇派上至皇系降而中は身

方之長夜は身力心取知り中は信之有之者控好義

類五別紙書紀指述之有也而能而して下後似多し古立

若くして押並して御少は古常之只族へとい遠類族重千

者其其茶以交地而為後中證為法後存空

廿九日

山崎乃之孫利

中澤文之節判

加藤九郎吉節判

永原清吉馬判

此言右之者為後中證之山月吉之孫利之孫也
其言以初之孫也

右加別山崎乃之孫利之孫也
其言以初之孫也

其言以初之孫也

其言以初之孫也

其言以初之孫也

其言以初之孫也

其言以初之孫也

九月十日

永原清吉馬判

加藤九郎吉節判

山崎乃之孫利

其言以初之孫也

丁未秋滿月... 丁未年九月... 丁未年九月...

一右... 丁未年九月...

一... 丁未年九月...

一... 丁未年九月...

九月... 丁未年九月...

永京... 丁未年九月...

田中... 丁未年九月...

一... 丁未年九月...

九月... 丁未年九月...

丁未年九月...

中... 丁未年九月...

一... 丁未年九月...

海防人... 見廻積... 中... 左... 右... 一...
一 数清人... 勇...

辛亥 九月 不吉

永系清吉

加彦九郎吉命

田中村
戸田村
乃古吉

勇

中... 指... 胆... 右...

